七夕の夜空

＜「七夕の夜空」あらすじ＞

宇宙には、たくさんの銀河が存在します。その中でも、地球を含めた太陽系が属する銀河を「銀河系」と呼びます。銀河系には、二千億個以上もの星が集まっています。この星の光が重なり合って白い帯のように見えるのが天の川です。

天の川をはさんで輝いているのが、七夕の星、織姫（織姫星）、彦星（牽牛星）です。それぞれ「こと座」の一等星ベガ、「わし座」の一等星アルタイルにあたります。ベガとアルタイルの間の距離は十五光年になります。一光年とは光が一年かかって届く距離のことで、約九兆五千億kmです。一年に一回会うことも、広い広い宇宙では難しそうですね。

ベガとアルタイル、「はくちょう座」の一等星デネブの作る三角形を夏の大三角と呼びます。「はくちょう座」は、宮沢賢治の小説「銀河鉄道の夜」で、銀河鉄道の出発駅となった星座でもあります。物語では、天の川にかかる「はくちょう座」から、「さそり座」の赤く輝く一等星・アンタレスなどを眺めながら、銀河鉄道は南の「南十字座」へたどります。他にも「ケンタウルス座」、「南十字星」、「大小マゼラン雲」など南半球の星座や天体の名前が物語の中にたくさん登場します。

「はくちょう座」のくちばしの位置に輝く青とオレンジの二重星「アルビレオ」は、サッカー「アルビレックス新潟」の名前の由来になった星です。七夕にちなんで、みなさんもぜひ空を見上げて、天の川や星座を探してみませんか？

＜献立例＞

「七夕給食」
- 星のハンバーグ
- 七夕そうめん汁
- 天の川スープ

など